島根県大田市・石見銀山大森地区における観光と市民生活の共存の歴史

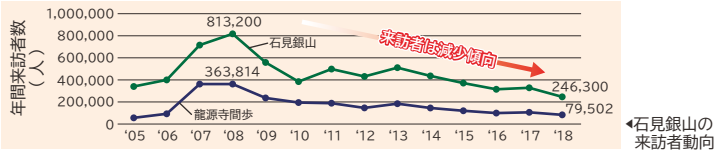
遠藤寛之・森山昌幸（株式会社バイタルリード）、松村和典（大田市観光振興課）、藤原章正（広島大学大学院国際協力研究科）、神田佑亮（呉工業高等専門学校環境都市工学分野）、鈴木祥弘（国土交通省中国地方整備局松江国道事務所）

- keywords: 合意形成、 道路空間再配分、 交通弱者、 グリーンスローモビリティ -

1. 背景・目的

2007 年　石見銀山大森地区（島根県大田市）が世界遺産登録
⇒観光客が殺到し、住民の生活環境悪化や交通安全性が低下

2008 年　石見銀山大森地区内の路線バスが廃止
⇒観光利便性が減少し、来訪者が減少
⇒近年、移動制約者を中心に移動方法の改善要望



2017 年　大田市において移動制約者向け交通手段の社会実験
⇒概ね高評価を得て、翌年度も継続実験

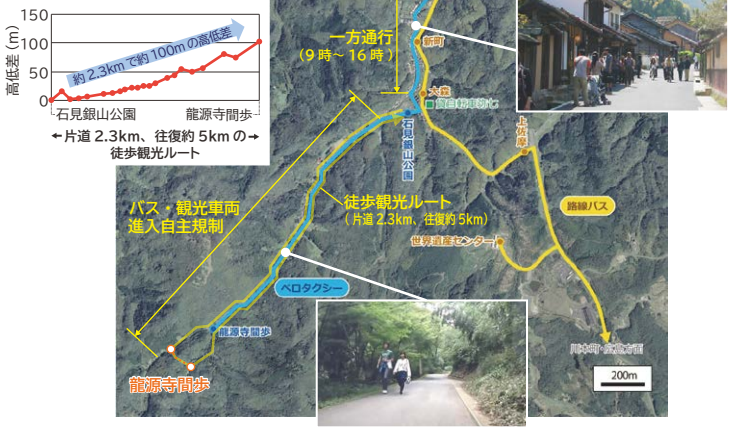
グリーンスローモビリティの登場

2018 年　国土交通省道路局の社会実験
⇒地域の意識にも変化？

本研究の目的
世界遺産登録 10 年間にわたる観光と市民生活を両立する交通のあり方の議論の変遷を俯瞰する。

2. 現地の概況

人口　398 人 / 高齢化率 42.7%
（2019 年 4 月 1 日現在）
平均幅員3～4m（最小2～3m程度）



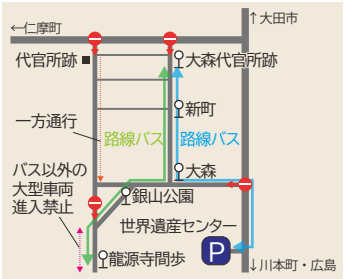
3. 世界遺産登録前後の交通対策

■「パークアンドライド」と「パークアンドウォーク」

パークアンドライド社会実験

2006 年に社会実験
⇒2007 年に行政と
大森町住民が施策に合意

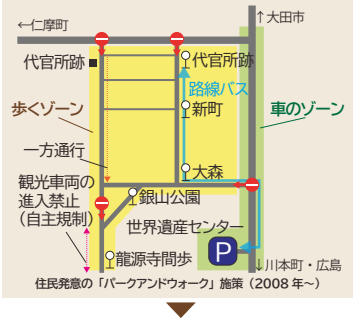
▼施策の変更を検討



登録前の社会実験を通じて合意した「パークアンドライド」施策

▼世界遺産登録後…

世界遺産登録後に多くの観光客が殺到し、路線バスの続行便が多数運行



住民発意の「パークアンドウォーク」施策（2008 年～）

▼徒歩・自転車を中心とした観光を推進

4. 移動制約者向け交通手段の社会実験の実施

観光客からの要望
・自家用車等で上まで上がれないのか。
・貸自転車にも乗れないので、歩いて上がるのは無理。
・観光を諦めた。／観光案内所で時間を潰さないといけない。

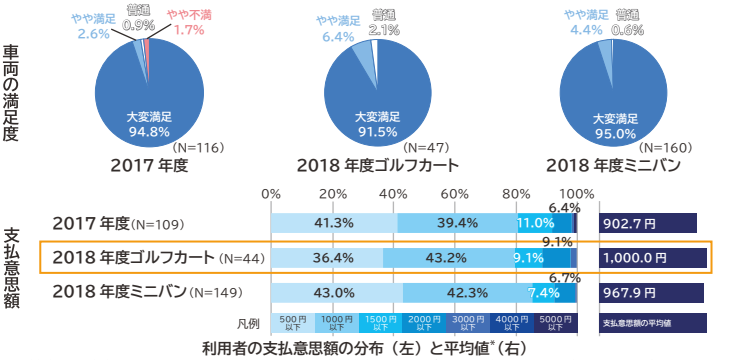
▼

2017 年度より移動制約者向け交通手段の社会実験を実施

実験概要

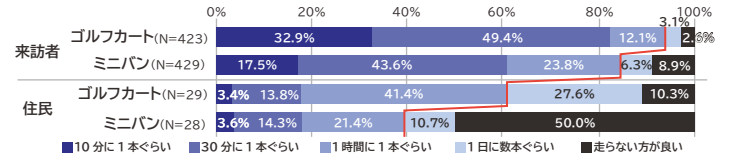
	2017 年度	2018 年度
実験車両	・i-MiEV 1 台	・SVO ディーゼル仕様ミニバン 1 台 ・ゴルフカート（4 人乗り）1 台
対象者	障がい者手帳をお持ちの方または龍源寺間歩までの歩行が困難な方（けが、病気、妊娠など）及び付添の方	
運行方法	非定時定路線	定時定路線（一部非定時定路線）
実験期間	2017/6/23 ～ 11/26	2018/7/1 ～ 11/26
事業主体	大田市【市単独事業】	（前半）大田市【市単独事業】 （後半）石見銀山遺跡内の車両規制に係る社会実験協議会【国土交通省道路局社会実験】
利用者数	対象者 155 名、介助者 210 名	対象者 185 名、介助者 209 名

実験結果（利用者アンケート結果より）



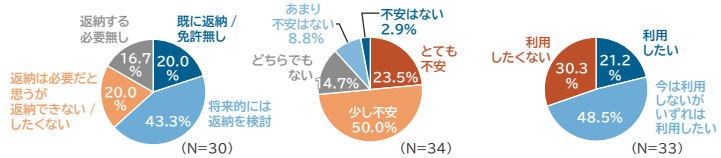
利用者の支払意思額の分布（左）と平均値*（右）
＊支払意思額は選択式で回答を得たため、平均値を算出する際には、回答者が支払意思額を各カテゴリの最大値（500 円以下＝500 円）と評価したと仮定し、単純平均で算出

5. 住民による評価（住民アンケート結果等より）



来訪者・住民アンケート調査における許容する走行頻度

・来訪者と比較して住民は許容する頻度が低い傾向にある
・ミニバンと比べゴルフカートの走行は許容されうると言える



将来の移動手段については不安を抱えている人が多く、公共交通としての利用意向も比較的高い

➡**グリスロという新たな交通手段の導入が容認される可能性**

6. 結論と今後の予定

2007年の世界遺産登録後：住民に車両走行に関する拒否感

▼

現在：グリスロの登場等により、交通に関する潮目の変革期

▼

今後：グリスロの本格導入を目指しつつ、石見銀山大森地区の交通体系を観光と市民生活が両立できる形に再構築（今年秋以降に長期間の運行実証実験を予定）

謝辞
2018年度の実証実験は、国土交通省道路局の「**道路に関する新たな取り組みの現地実証実験（社会実験）**」により実施され、有識者から有益なご助言を頂いた。この場を借りて御礼申し上げる。

出典）大田市資料、パン / イ・ナッタポン：リビング・ヘリテージ地域における観光影響予防策に向けた関係主体協働の展開，東京大学大学院博士論文，2012